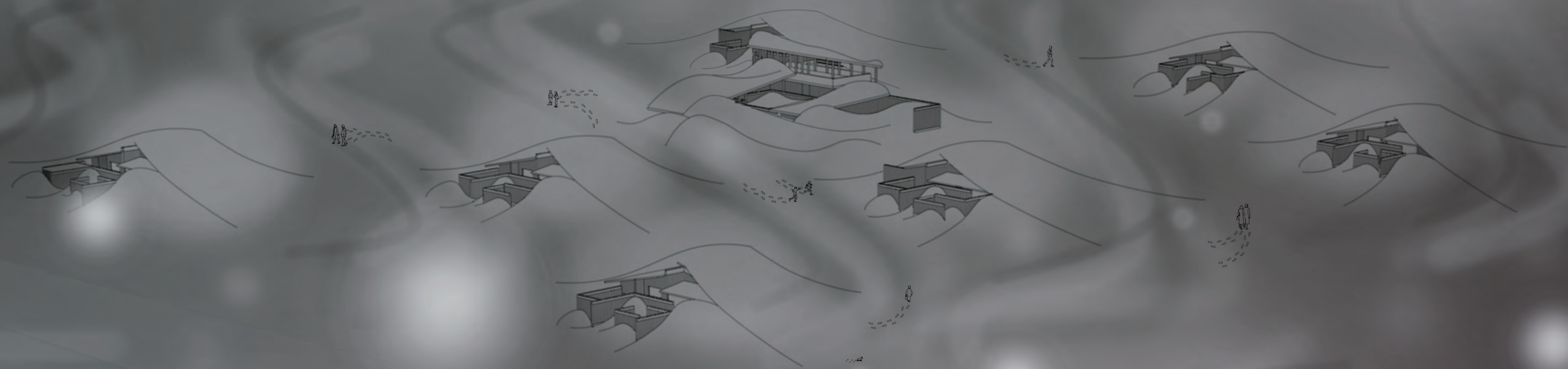


雪とともに住もう

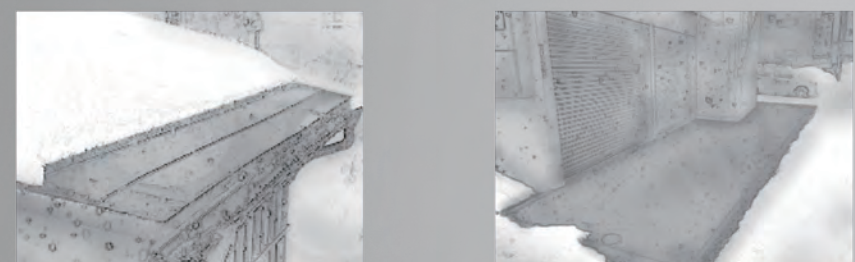
—「溶かす」から「と化す」へ—

雪害に悩まされる雪国の暮らしに対する現在の建築の答えは雪を「溶かす」こと
 雪害の解消のみに焦点が当たり忘れられつつある雪の可能性を活かし、雪を「と化す」建築を提案します



背景

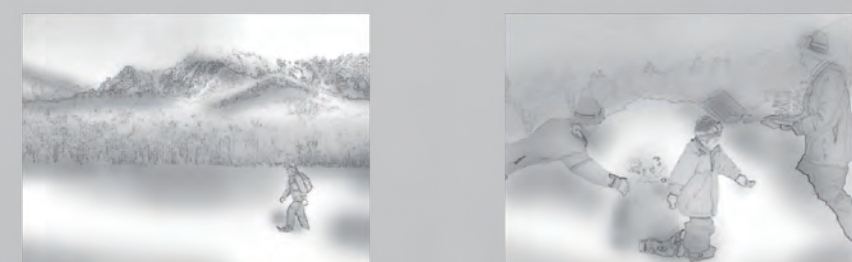
雪害に悩まされる地域の現在の建築は機械によって雪を意図的に溶かしている



雪は溶かされるまでよいのか？
 雪害の解消のみ焦点が当てられ、融雪にかかる費用や環境への配慮がされていない

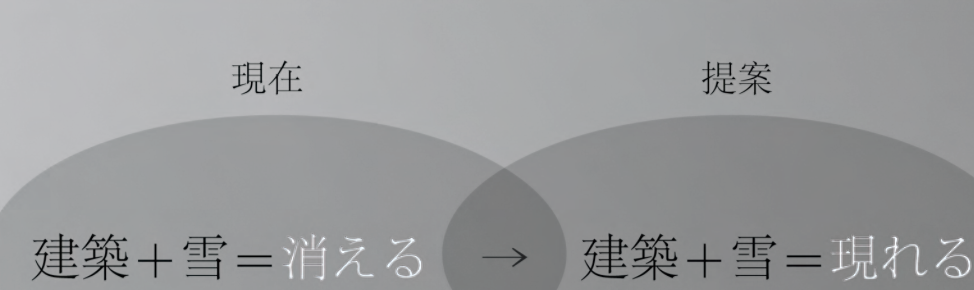
経験

雪国で生まれ育った私にとっては雪は身近なものであった



雪と暮らすことには自然な暮らしのあり方がある
 雪の持つ様々な性質は建築に応用できるのではないのか？

提案



雪を「溶かす」のではなく雪を「と化す」建築の提案

アプローチ

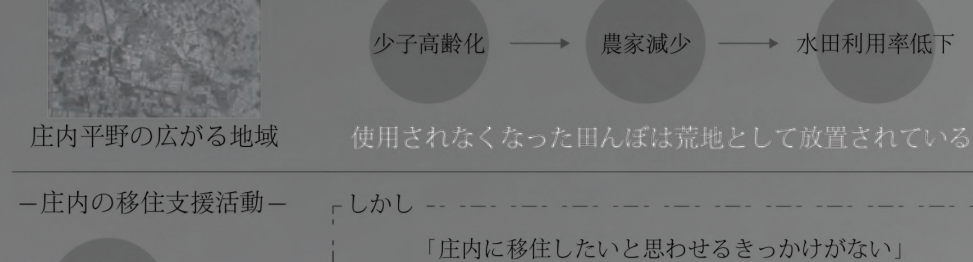
現在の建築は、1つの建物単位で雪害の解消を試みるため機械に頼らざるを得ない



集落単位で設計を行うことで機械に頼るのではなく、自然に雪との共存を可能とする

敷地概要

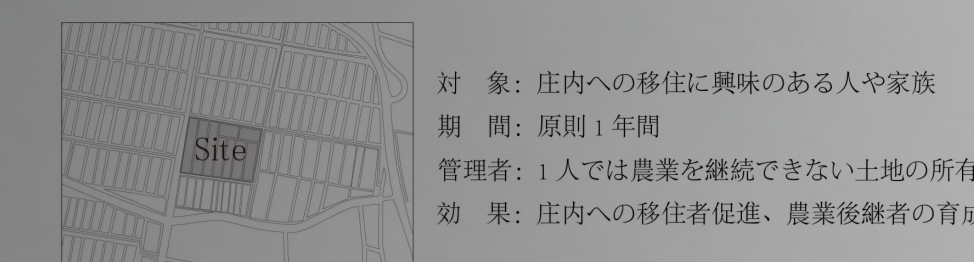
山形県庄内
 庄内平野の広がる地域
 庄内の移住支援活動
 移住者の支那
 全戸の移住体験



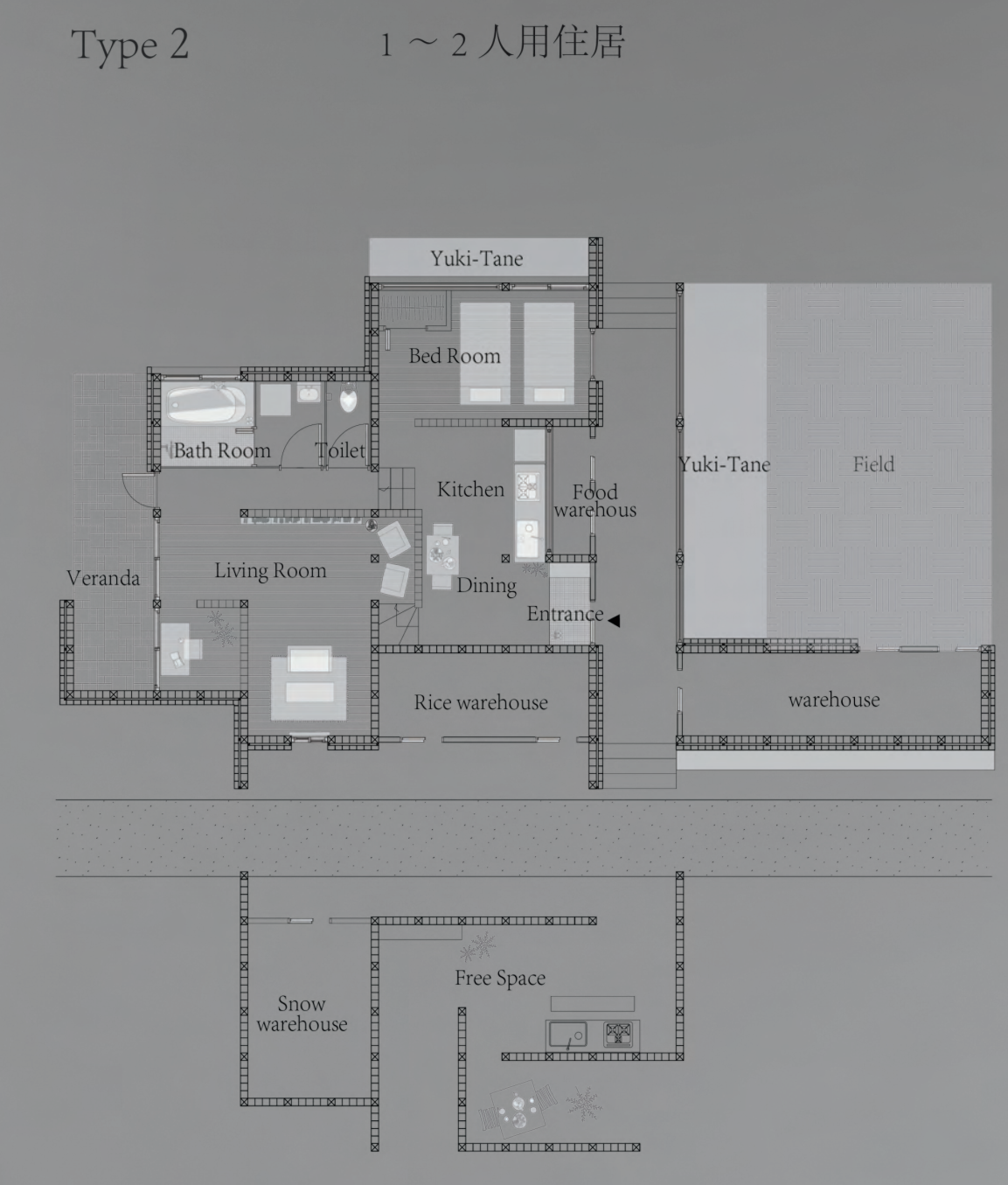
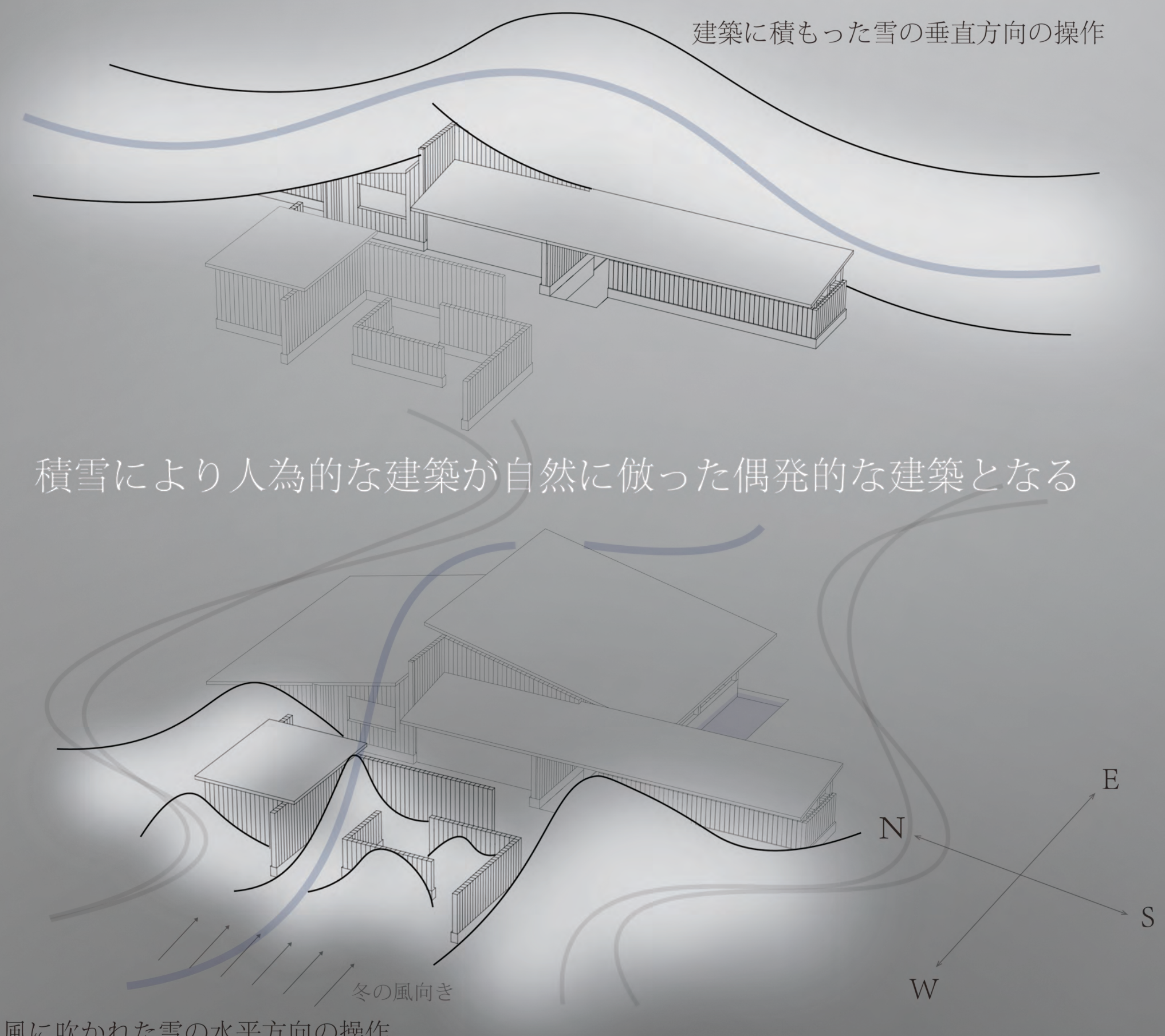
「庄内に住みたい」と思われるきっかけがない
 「地域住民としてのかわりがない」
 「雪国では季節ごとに生活する庄内の暮らしを体験できない」
 「雪国に住むことへの抵抗が大きい」
 ...などの問題がある

プログラム

庄内平野の 田舎を思い出したくない
 田舎を思い出したくない
 田舎を思い出したくない



対象: 庄内への移住に興味のある人や家族
 期間: 原則1年間
 管理者: 1人では農業を継続できない土地の所有者
 効果: 庄内への移住者促進、農業後継者の育成
 雪があるときとないときの2面に着目し雪国ならではの新たな暮らしや庄内平野を活かした庄内特有の移住体験を実現

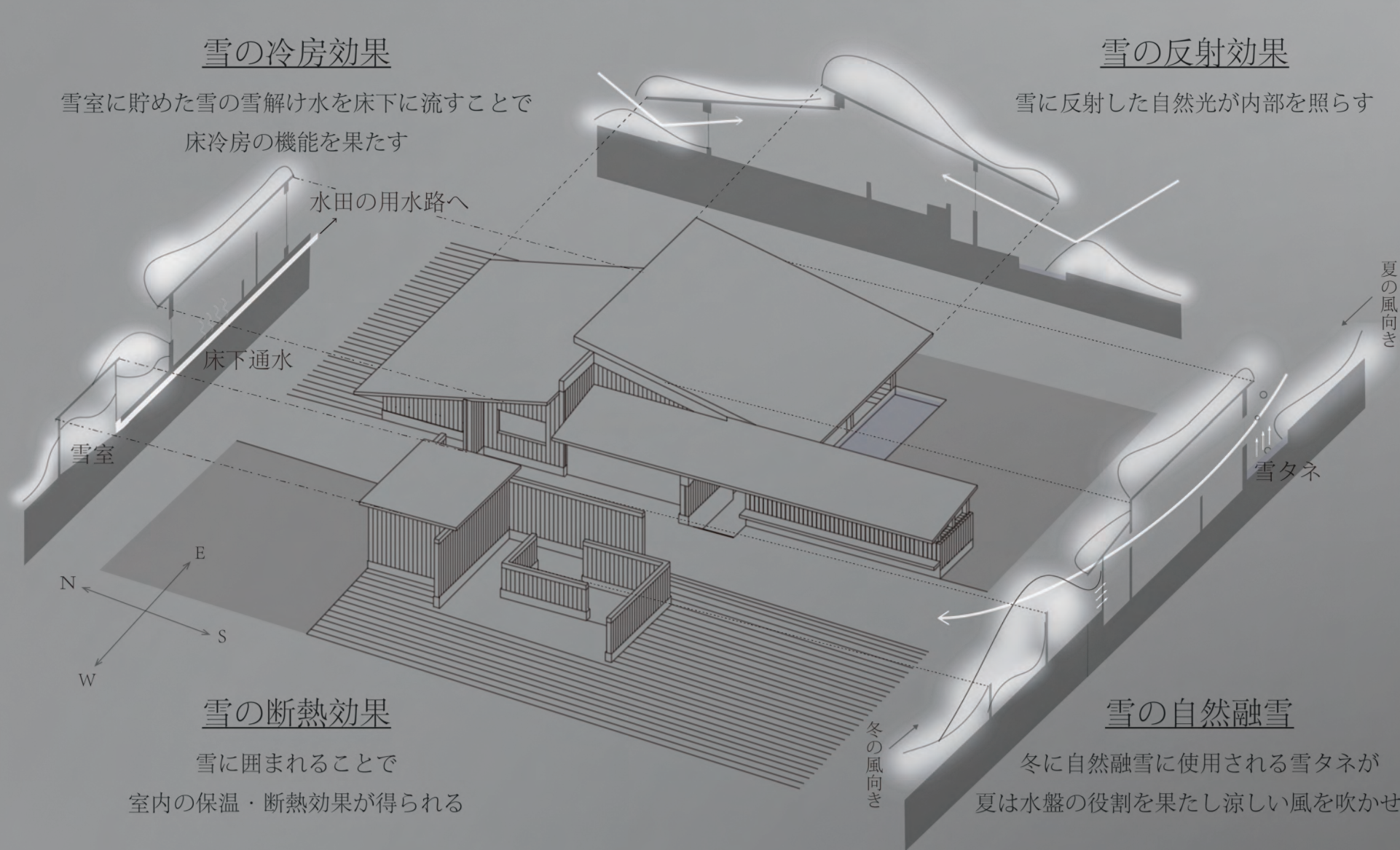


「道」と化す



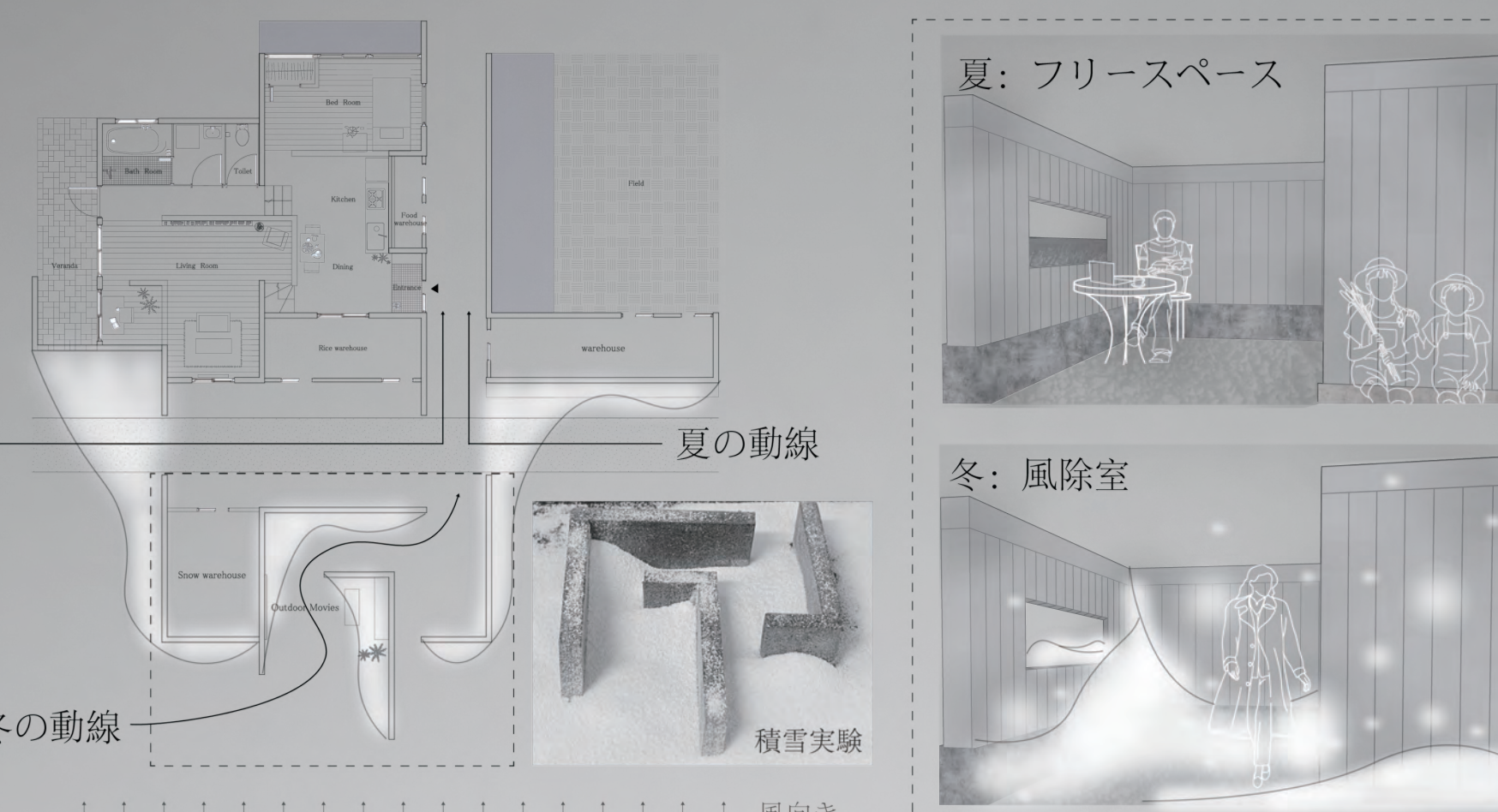
田んぼの畔や農業用道路が雪埋もれ、境界の無くなった積雪後の敷地に「吹き溜まり」や「しみわたり」といった自然現象を応用し風によって現れる道をつくる

「環境装置」と化す



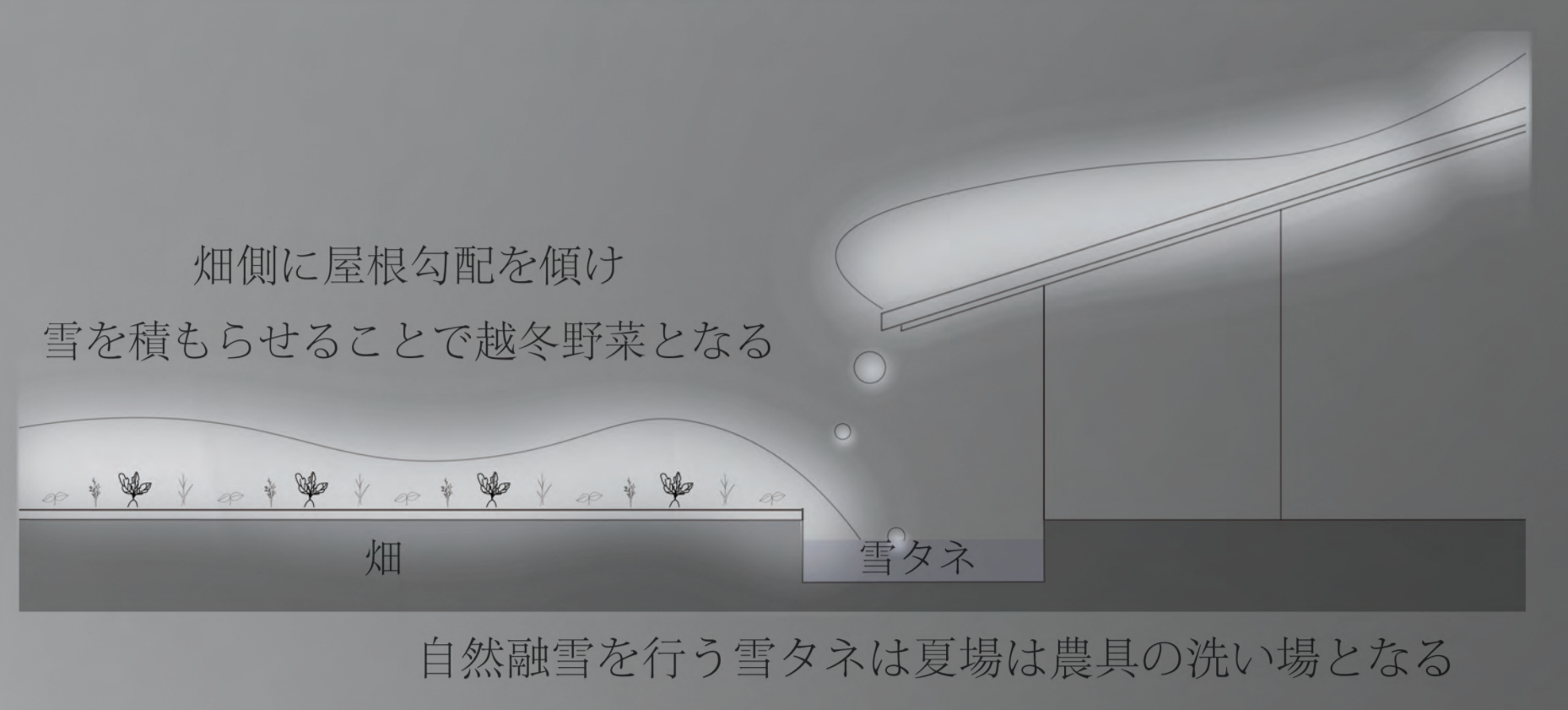
「建築の一部」と化す

従来の建築的手法は屋根の造形で雪を操作するものが多いが風の強い庄内では、雪が横から吹雪くため壁によっても雪を操作する

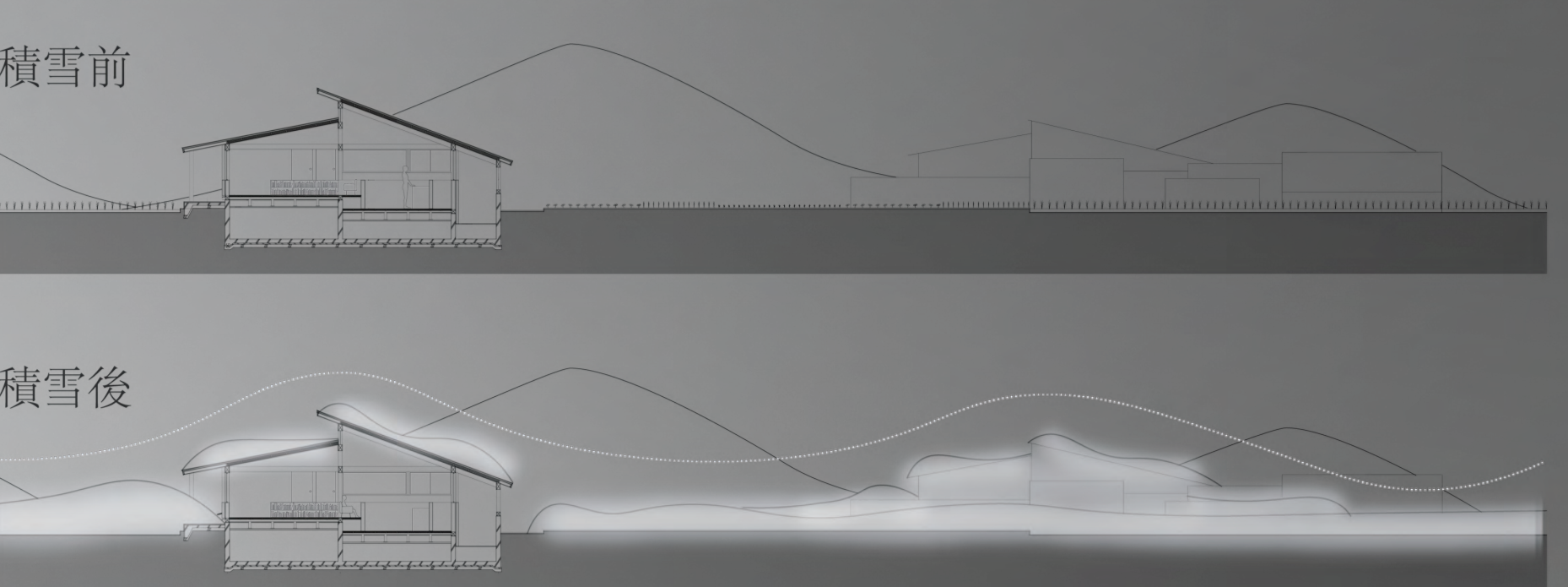


雪の壁が消えたり現れたりすることで季節によって機能が変化する

「農業資源」と化す



「景色」と化す



雪により変化する空間の用途と暮らし

